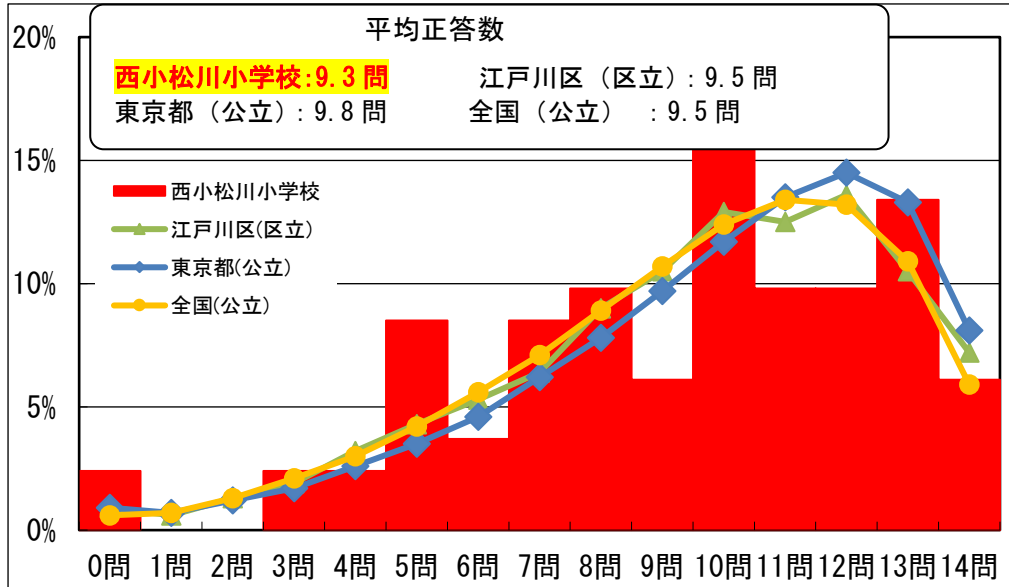


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 西小松川小学校

正答数分布



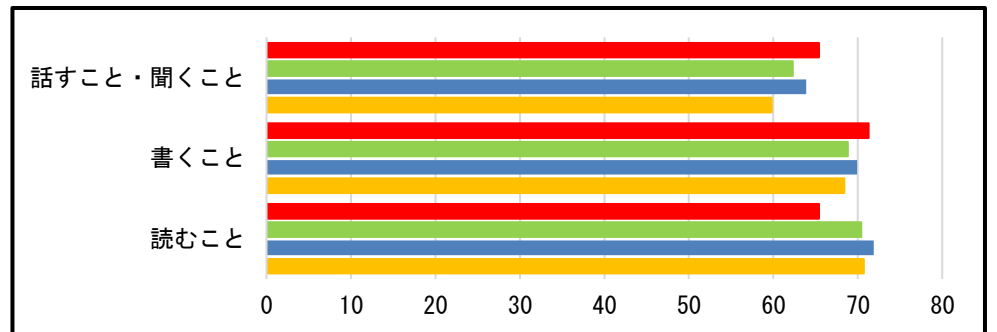
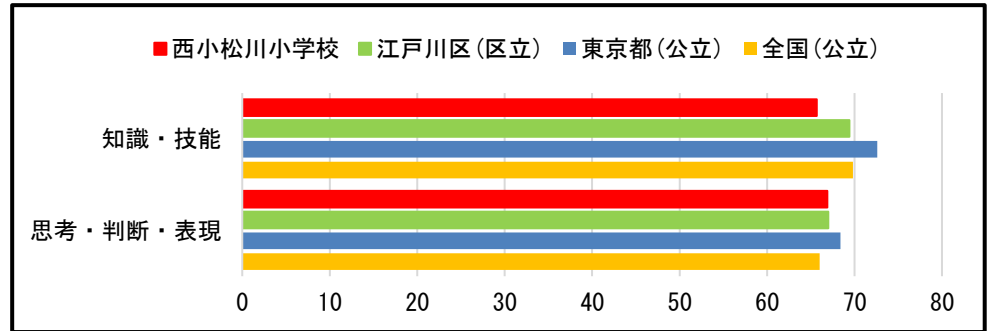
＜四分位における割合(都全体の四分位による)＞

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
西小松川小学校	29.3	26.9	15.9	27.9
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

西小松川小学校	66.0%
江戸川区(区立)	68.0%
東京都(公立)	70.0%
全国(公立)	67.7%
都との差	-4ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

「話すこと・聞くこと」の領域の本校の平均正答率 65.4% (全国 59.8%)、「書くこと」の領域の本校の平均正答率 71.4% (全国 68.4%) は、全国平均値より上回っていた。一方で「読むこと」の領域の本校の平均正答率は 65.4% (全国 70.7%) と低い数値となった。

授業改善に向けて、国語科の授業では、「読むこと」の力を高めるために、授業で扱う文章の意味調べに取り組み、語彙を増やしたり、根拠を探しながら自分の考えを述べたりする学習を継続的に取り組む必要がある。また、国語科の授業に限らず、各教科における資料の読み取りやよむ YOMU ワークシートの取組を活用しながら、様々な種類の文章に触れ、「読む」場면을意図的に取り入れるようにする。